

令和元年度第3回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

○ 会議概要

1 あいさつ

能村総務部長あいさつ



2 議題

- (1) 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について
- (2) 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関するパブリックコメントの実施について

<事務局>

【参考資料 北名古屋市人口ビジョン（改訂中）の説明】

【資料1 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）の説明】

【資料2 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策変更一覧表の説明】

<会長>

事務局から第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案と第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の変更点について、説明を受けた。

これらについて、委員の皆さんのご意見やご質問を伺いたい。

<委員>

資料1をパブリックコメントに出すことになるが、SDGsの項目が見にくいので、印刷をはっきりさせるとともに、項目ごとの詳しい解説があると良い。

<委員>

SDGsについても、Society 5.0も、市民にとっては分かりにくい。具体的な市との関連性を持たせた解説があると良い。SDGsについては、もう少し関連一覧に丸が付くところがあると思う。また、「飢餓をゼロに」という項目で一覧に丸を付けたところの理由を教えてほしい。

<事務局>

用語については、解説する。

「飢餓をゼロに」という項目については、アフリカなどの飢餓という狭義の意味に捉えたと、市との関連性はかなり限られる。国の資料によると、市内で食べるのに困る子どもがいなくなるようにというようなことに落とし込んでいいという解釈なので、子ど

も食堂や朝食を食べる取組など、市のレベルにして丸を付けた。他市町をみても、総合計画に掲載しているところはあるが、総合戦略の一部としてSDGsについて載せるべきかは難しい。

<委員>

SDGsやSociety 5.0について、総合戦略の中で「適切に対応」という言葉ではなく、市としての具体的な取組を示すと良い。

<委員>

前回の資料では、骨子案をまとめた一覧に新規は分かりやすく示されていた。パブリックコメントの素案についても、第2期から加わったものについては、分かりやすい表記があると良い。

<委員>

第2期総合戦略は、2027年度までの総合計画との関係では中間的なものなので、総合計画の中に記載がある名古屋市との合併について、総合戦略とは別途検討が必要。2060年に人口81,500人を維持するという目標も、合併した場合にどうなるかは研究しておくべき。

<委員>

国と愛知県の総合戦略において示されている「新たな視点」について、特に「新しい時代の流れを力にする」という部分を市はどう取り込むか。

<事務局>

「新たな視点」については、市の事業と直接的、具体的に紐付いているわけではないので、国の新しい視点ということで、適切な対応をするということにとどめている。

<委員>

基本目標2の「地域の魅力を再発見」の部分で、「交流人口の増加や移住・定住」という案に変更しているが、インバウンド事業は当市になかなか結び付いていないと思うが、今後は考えるという意図か。

<事務局>

国は、実質的に人口が減ってきていても、交流人口が増えていけばいいという考えになってきた。当市はベッドタウンなので、インバウンド事業への対応は難しい。政策が国から示された場合、総合戦略に書いてあることが非常に重要になる。交流人口については、今後どのように地方創生予算が展開されていくかわからないので、広くとらえて記載している。

【資料3 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略 K P I 一覧表の説明】

<会長>

事務局からK P I 一覧表について説明を受けた。

虐待通報や児童相談の件数について、基準値と目標値が同じことに違和感を感じ、減らしたいと思う。また、一般不妊治療についても、基準値100件で目標値も100件だと、これを上回るとどうなるのかと思う。希望者に100パーセント支給するという目標の方がいいように思える。

<事務局>

不妊治療への補助金は、その都度申請するのではなく、まとめて申請するもので、一件当たりの金額も同一ではない。予算を増やせば申請が増えるものではなく、申請の現状を見ながら予算も決めているので、希望が100パーセント通るとするのがいいのか、件数が多い方がいいのか、担当課も悩んでいる。虐待についても同様に、虐待の通報がしやすい環境にすることが大切。そのため、件数が増えてもおかしくはない。達成必須型ではなく、定点観測に近い形で示すべきと考える。性質上、K P I の設定が難しいところがある。

<委員>

基本目標1の施策4で、高齢者の活躍支援が記載されているが、労働力不足の中、いかにも退職しましたという方の指標となっているので、違和感を感じる。

<事務局>

地域で生きがい、そして応酬をという考えで記載しているが、民間に60歳以上の受け皿がある。シルバーの方は、事務的な作業を求めており、需要とのミスマッチもある。いきいき隊は、働いていない方の趣味の部分もあるので、指標としては難しい。

<会長>

国が積極的な高齢者の活用を打ち出しているため、それに対応できるような指標にするよう、工夫すべき。

<委員>

マイナンバーカードの交付率について、20パーセントの目標で、現状9パーセントというのは低い。新聞にも掲載されていたが、公務員は来年3月にはマイナンバーカードを持たなければならなくなる。市民課などに一気に事務が集中しないよう、広報などで周知し、前もってできることは準備しておくべき。

<事務局>

市内在住の公務員の正確な数を知ることはできないが、約7パーセントの上振れは期待できる。また、国からの補助金が100パーセントあるので、非常勤職員を雇用する等で事務の増加には対応することができる。混乱の前に公務員は取得するようにという意味と考える。

<委員>

基本目標2の施策4のわくわく地方生活実現政策パッケージ利用転入者についてもっとアピールすると、基準値0ではなくなると思う。

<事務局>

補助金をもらうには、各都道府県にある定住サイトに登録してある事業所に就職しなければならない、1年の就業証明を出して初めて補助金がもらえるシステム。人口減少している市町にとっては、100万円出しても定住してほしい。当市は人口増加しているが、定住エリアとして選択肢になる方が良いという思いから、手を挙げた。住んでいるところと働くところを同一市内にするかが問題となったが、当市は在住・在勤という制限をかけ、ハードルを上げたので、0人ということだと思う。1年に1人の算定で、今年度を入れて6人を目標値とした。

【資料4 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関するパブリックコメントの実施についての説明】

4 その他

<事務局>

第4回の委員会の日程については、1月又は2月に開催させていただく予定。

<会長>

これにて委員会を閉会とする。

【閉会】

配布資料	資料1 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案） 資料2 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策変更一 覧表 資料3 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略 K P I 一 覧表
------	---

	資料4 第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関するパ ブリックコメントの実施について 参考資料 北名古屋市人口ビジョン（改訂中）
--	--